

平成24年度

施策評価マネジメントシート(平成23年度の実績評価)

記入年月日

平成 24 年 6 月 19 日

施策No.	政策名	快適で潤いのある生活環境づくり	主管課	生活安全課	主管課長名	皆川 忠久
403	施策名	交通安全対策の推進	関係課	建設課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	交通安全事故にあわない、起こさない	・市民、市内の道路利用者(車両運転者・歩行者) ・市内道路	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920
実績値			46,575	45,673	45,105							
②市内道路延長(国道、県道、市道)		見込値			1,627	1,627	1,626					
			実績値									
		見込値										
			実績値									
施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
交通安全事故にあわない、起こさない	①市内の交通事故発生件数(人身)	件	目標値			178	169	160	152	145	137	
			実績値	197	187	148						
	②市内の交通事故死亡者数	人	目標値			0	0	0	0	0	0	
			実績値	1	7	1						
	③市内の交通事故負傷者数	人	目標値			235	223	212	201	191	182	
			実績値	266	247	190						
成果指標設定の考え方	○交通事故に遭わず、起きなければ、①交通事故発生件数、②③交通事故による死傷者数は減少すると考えた。											
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○市内の交通事故件数等は桜川警察署資料から											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○事故にあわない、起こさないために、交通ルールを守る。(運転者及び歩行者等) ○地域の自主的な取り組みにより、交通安全意識を高める。 ○酒を飲んだら絶対に車に乗らない。酒を飲んだら乗らせないを徹底する。 ○交通安全母の会、交通安全協会、安全運転管理者協議会等、各種団体において交通安全運動を推進する。	○交通安全施設の整備を図るとともに、警察署や学校、地域の関係団体と連携し、市民の交通安全意識の高揚に努める。 ○交通安全施設(信号機、横断歩道、カーブミラー、ガードレール)の設置要望や整備を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○通学中の小学生に対する重大事故により道路整備が懸案事項となっている。通学路整備に対する調査。ガードレールの設置緑石、歩道・車道の分離が求められてくる。 ○13歳未満の子どもの自転車は歩道の通行は可能。	○歩道の設置について、市民(青少年育成桜川市民会議)から要望があった。 ○警察からは小中学生の自転車乗車時のヘルメット着用を要請されている。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①交通安全意識の向上	市民、市内の道路利用者	交通事故にあわない、おこさない	事故発生件数(人身)	実績値	187	148					
			件								
②交通安全施設等の整備	市内の道路	危険箇所を解消する	事故発生件数(物損)	実績値	733	728					
			件								
			整備箇所数	実績値	79	111					
				件							
				実績値							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	22年度実績	23年度実績	24年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	9	9	9
②施策事業費(一般財源以外)	千円	5,689	5,099	5,720
③施策事業費(一般財源)	千円	5,628	5,585	5,044
④施策事業費の計(②+③)	千円	11,317	10,684	10,764
⑤施策人件費(事務事業の人員費合計)	千円	0	12,030	11,733
⑥計(④+⑤)	千円	11,317	22,714	22,497

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
事務事業	交通安全啓発事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位
事務事業	交通安全指導事業	H24年度優先度評価上位、H23年度貢献度評価成績上位

施策番号	403	施策名	交通安全対策の推進	主管課	生活安全課
------	-----	-----	-----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)					
実績比較	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)		
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した			
背景・要因	・市内の交通事故(人身事故)発生件数は、20年度265件発生していたが、23年度は148件と大幅に減少している。交通事故死は高齢者が中心となって発生しているが、減少傾向にある。交通事故死傷者数についても、20年度345人から23年度は190人と減少している。(ガソリンの高騰により、自動車の利用を控えている傾向にあると思われる。) ・桜川市では市と警察署及び各種交通安全団体(キャンペーン等)が協力して交通事故防止に努めている。 結果として交通事故件数、負傷者数と前年までと比較し大きく減少しているため成果は出ていると考えられる。 ・死亡件数は、22年度で増加しているが、近年の死亡事故のほとんどが高齢者である。23年は1件であったが、高齢者であった。 ・市としては交通安全施設の整備や各種交通安全教室等の開催、警察署では取り締まりの強化、交通安全団体では交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識啓発事業に取り組んでいるが、高齢者の事故防止が課題である。				
1)-②成果目標の達成状況					
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った		
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った		
背景・要因	①市内の交通事故発生件数(人身)は、23年度目標値178件に対し、148件と30件減少し、目標値を上回った。 ②市内の交通事故死者数は、23年度目標値0人に対し、1人であり目標値を下回った。しかし、23年度は死亡事故ゼロ300日を達成し、県の表彰を受けている。 ③市内の交通事故負傷者数は、23年度目標値235人に対し、190人と45人減少し、目標値を上回った。				
2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)					
実績比較	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である		
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である			
背景・要因	・22年の人口千人当たりの事故件数は、茨城県が5.47件に対し桜川市は4.09件であり44市町村中35位である。筑西市は5.10件で16位、笠間市が4.87件で17位となっている。交通事故死傷者数(10万人当たり)は、茨城県が717.46人に対し桜川市は556.13人で32位、筑西市は678.17人で16位、笠間市は658.62人で17位となっている。国道50号線で結ばれる、近隣市の中で桜川市だけが良い数値を表している。				
3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?					
実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である		
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である			
背景・特徴	・桜川市の現状として、JRおよびデマンドタクシー以外では公共交通機関がないため、自家用車を利用しなければ生活が成り立たないというライフスタイルから、市民の交通安全対策に対する期待水準は高いと思われる。 ・総合計画(後期)策定時におけるアンケート調査(23年3月)から、この施策は優先度も満足度も平均より高く、重点維持項目にある。				
7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括					
前年度の取組状況と課題	・23年度は、「車両を利用する人」、「市道」を重点対象に、「交通安全意識を啓発する」、「交通安全施設を整備する」を重点意図として事務事業を行った。貢献度評価から今年度貢献した事務事業は、「交通安全指導事業」、「交通安全啓発事業」、「交通安全施設整備事業」、「市交通対策協議会運営事業」であった。 ・交通安全指導事業は、交通安全教室を内の小中学校16校、保育所・幼稚園9施設、高校1校、そして高齢者向けに3地区で交通安全教室を実施したほか、高齢者向けの交通安全教室として、『交通安全グランドゴルフ大会』なども開催した。 ・交通安全啓発事業は、春、夏、秋、年末各期の交通安全運動時に、市交通対策協議会構成団体である交通安全協会役員、交通安全母の会役員、安全運転管理者協議会役員が市内交通要所で街頭キャンペーンを行った。また、期間中市内交通要所数カ所において、民間交通指導員による街頭立哨、防災無線・交通指導車を使用した広報活動を行った。 ・交通安全施設整備事業は、交通事故の防止、抑制のため、交通事故が多い場所や危険箇所等に交通安全施設を設置した。また従来からの施設で壊れた箇所は修繕を行った。カーブミラー、ガードレール、交通標識、区画線、街路灯などの設置修繕に取り組むほか、カーブミラーの角度調整などを重点的に実施した。 ・民間交通指導員活動事業では各季の交通安全運動期間中などのキャンペーンや立哨活動など交通安全の普及啓発のための活動を行っている。 ・市交通対策協議会運営事業は、関係機関団体と緊密な連絡をとり、交通安全指導事業・交通安全啓発事業等の計画・推進を図った。また、交通安全関係団体への助成・提案を行い、交通安全協会参画事業、交通安全母の会運営事業、安全運転管理者協議会運営事業を効果的に推進した。 23年度は、特に高齢者の交通事故対策を重点的に実施した。新規の取り組みとして「区長さんからのプレゼント事業」として反射タスキの配布を実施した。 その他の事務事業では、自転車二輪自動車商協同組合の協力を得て、自転車通学をしている小・中学生の自転車1,284台の点検を行っている。				
8. 今後の課題と次年度の方針(案)					
区分	今後の課題		次年度の方針(案)		
施策全体	・高齢者の交通事故が増えていることから、高齢者の交通事故対策として高齢者交通安全教室の充実を図る必要がある。 ・道路整備に伴うスピード超過による無謀運転への対策や携帯電話の使用による漫然運転を防止する必要がある。		・交通事故から市民の尊い命を守るため、交通安全施設の整備や安全な道路環境の形成に努めるほか、市民一人ひとりの交通安全に対する意識の啓発に努めます。 ・高齢者をはじめ、各世代における各種交通安全教室の充実を図ります。 ・警察署や交通安全団体と連携し、交通安全のキャンペーンや立哨活動による交通安全への意識啓発に取り組めます。 ・通学路における危険箇所の把握とともに、重大事故を未然に防ぐための危険箇所の解消や交通安全施設の整備を図ります。		
基本事業	①交通安全意識の向上	・道路整備に伴うスピード超過による無謀運転への対策や携帯電話の使用による漫然運転を防止する必要がある。	交通事故防止のため広報活動や街頭キャンペーンを実施して交通ルール・マナーの向上など交通安全の意識啓発を行っていきます。 また、子どもや高齢者の交通安全知識の向上のため、交通安全教室なども実施していきます。		
	②交通安全施設等の整備	・通学路における危険箇所の把握とともに、重大事故を未然に防ぐための交通安全施設の整備が求められている。	交通安全施設や車道・歩道を整備し道路の危険箇所を解消するとともに、施設の保守点検に努め交通事故防止を図ります。		